

伊勢神宮と羽黒山の御深秘

古来日本人が、私も大好きな伊勢神宮（外宮&内宮）と、出羽三山羽黒山床下にあるとされる御深秘を取上げる。

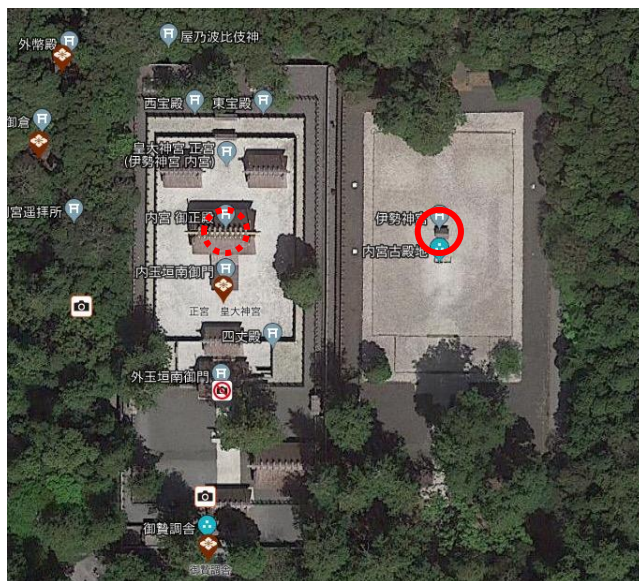
1. 伊勢神宮の御深秘

私は伊勢神宮には5回ほど参拝に行っているが、まずは、伊勢神宮の建物の中でも秘中の秘、大深秘と言われ、一般の人は絶対に立ち入れない、神社関係者といえども宮司くらいしか入れない所にある「しんのみはしら心御柱」のことから始める。

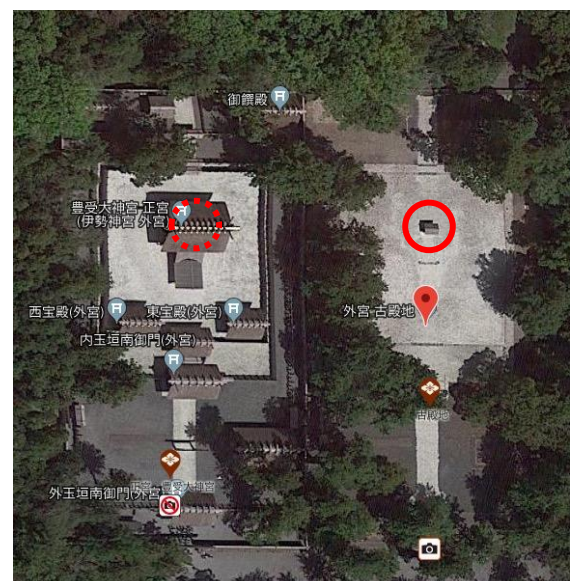
(1) 御深秘の存在個所

上空写真図－1において、丸印（点線・実線）の所であり、右側の空き地は以前神殿があった場所――古殿地である。図－2の概況平面図は御深秘のある「御正殿」の位置である。なお、両図ともインターネットサイト（◆伊勢神宮・御朱印◆）から拝借したものである。

（2）床下御深秘



〔内宮〕

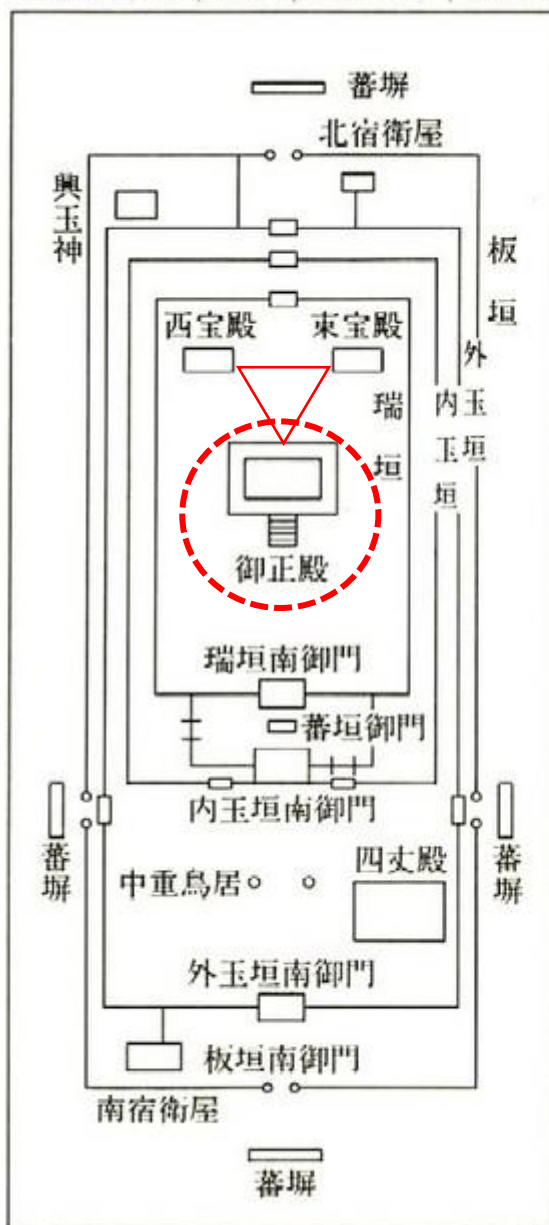


[外宮]

图-1

その1；伊勢神宮両宮の御正殿床下には、古くから崇拜・信仰の対象とする御深秘・御神秘の心御柱が埋納されている。20年に一度の式年遷宮――これまでの敷地の隣地（新御敷地）に新しい社殿を建立し、今までの社殿は撤去する――においては、その心御柱を移動する祭儀「心御柱奉遷の儀」がある、古い建物はすべて撤去されて単なる石敷の原になる。すべての人工物は取り払われて自然に返されたかのように見える。しかし、この「古殿地」をよく見ると、元あった正殿の位置に小さな覆い屋（おいや覆屋）が遺されている。ここに旧の「心御柱」が撤去されずにそのまま残されている。それが「心御柱」と言われる神聖な柱を埋納していた場所なのである。

皇大神宮(内宮)御垣内平面図



豊受大神宮御垣内平面図

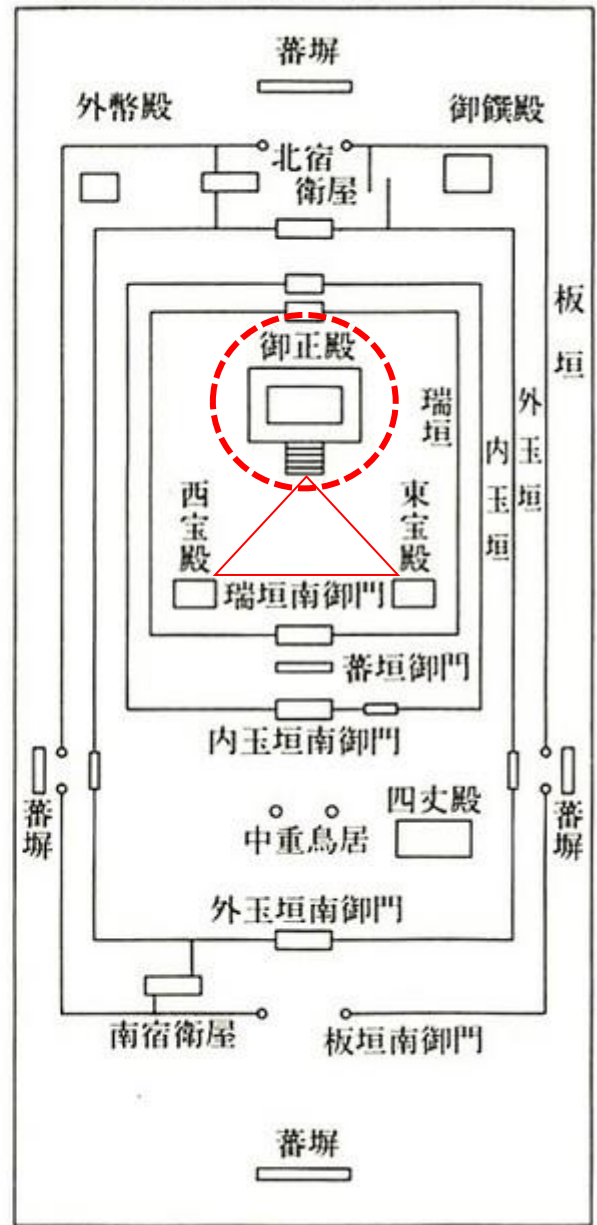


図-2

他方、内宮のご祭神で天照大神のご神体は八咫鏡である。その八咫鏡は先の心御柱の真上にある船形^{みふなしろ}の御船代の上に安置されている、その船は石船と呼ばれている。社殿は伊勢神宮ご神体の八咫鏡^{やたのかがみ}（御船代）とその「心御柱」が上下ぴったり一致するように建立されている。しかし、柱と言いながら、本殿とは構造的に繋がってはいなく、いわば独立した存在である。ところで、外宮の御神体とはいったい何なのか？ 判明していないとのこと。

その2；さてそこで、心御柱とは如何なるものなのか？

『1』；丸山茂氏の研究論文「心柱ノート」から一部を拝借する。

- ・長さ六尺、直径九寸の白木の檜棒である。
- ・内宮は地中に全部埋設されている。
- ・外宮は半分以上突出している。
- ・(内宮は) 最下部は厚い礎板で、柱の下部が礎板に食い込むように仕口が取られている。

・(外宮は)礎板の代わりに礎石を用い、

『2』；宮家準の研究論文「民族宗教における柱の信仰と儀礼」(図-3を添付)を参考にする。

・柱を黄・白・赤・黒・青の五色の糸(あるいは布)で巻くが、これは地水火風空の五輪になぞらえている。

・特に外宮では、柱の上部に五輪を示す丸印が付されている。

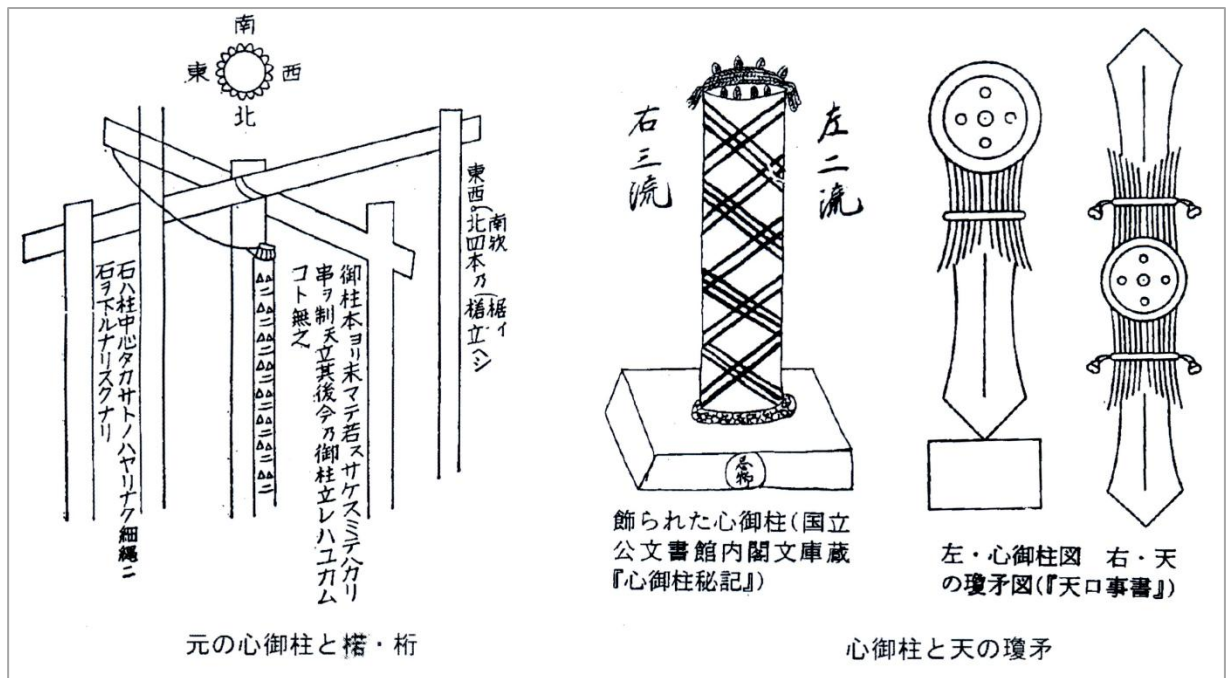


図-3

その3；松崎照明氏著「山に立つ神と仏」によると、従来、信仰対象の柱と考えられて来たが、正殿の位置を確定するための単なる標示柱だとの説も現れたということ。図-4は同書記載のものを転記した。

その4；なお、大きさや形状については時代変遷や諸説があるという。深秘であるが故に当然のことだが、何も公表されていないので精確には分かったはずはない、知るすべはない。

それではなぜ、前記のような情報が洩れているのかとなるが、過去において様々なトラブルに見舞われ、その都度修復作業を行い関係者が出入りしているからだという。

その5； 図-5は、私が「西国三十三所観音霊場順礼」——
2019(H31)年^{自宅発}4月1日(月)～同(R元)年^{自宅着}5月10日(金)——で立ち寄った時に、内宮の旧社殿地に残された御深秘覆い屋です、ついに、肉眼で確認し念願を果たした。

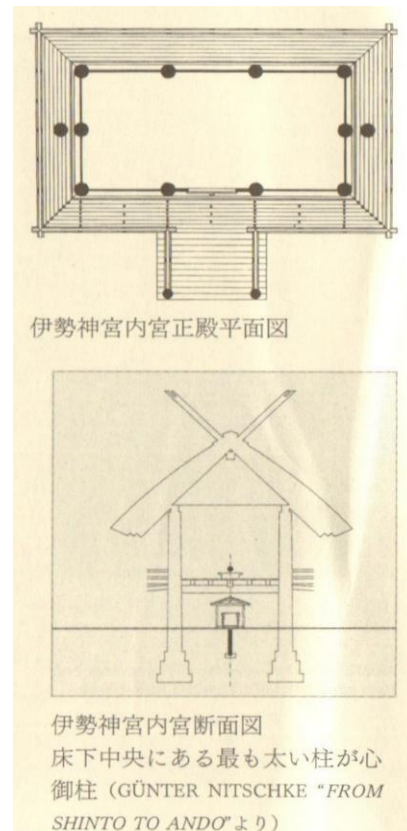


図-4

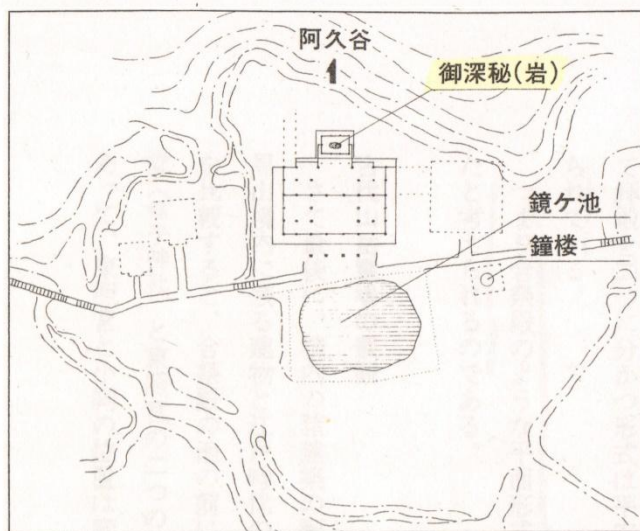


図－ 5

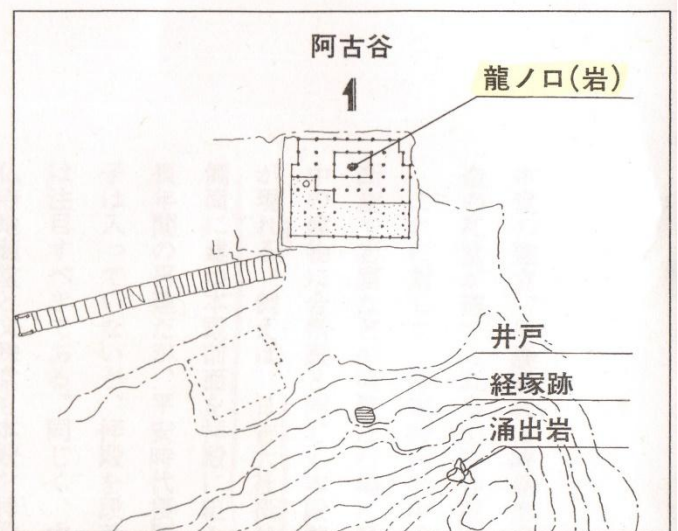
2. 羽黒山の御深秘

「佛教藝術」248 号の松崎照明寄稿文より引用する。

・・・(図－ 6 を掲載)・・・本殿部分にある信仰対象である。大峰山寺（奈良県）本堂の内々陣には、最も重要な信仰対象である「龍ノ口」と呼ばれる岩があったが、出羽三山三神合祭殿の内陣（本殿）床下にも御深秘あるいは御神秘と呼ばれる^{おのみねさんじ}（注）岩（井戸を伴う）があると伝う。この岩は本殿床下に板扉に閉ざされており、現在も披見の許されない秘密の信仰対象で、十七年に一度、二十一日間の精進潔斎を行った神職と大工だけが修繕に入る。現社殿の前身建物が（火災で）消失した際には



羽黒山境内概略図



大峰山寺境内概略図

図－ 6

「^{とりあう}取敢御深秘殿乃造立」が^{くわだ}企てられ、文化十(1813)年六月には完成の届出が行われている。ここに言う御深秘殿とは、御深秘を祀る社殿という意味であろうが、文化九(1812)年二月の「会所記録」には、御本社消失のとき御深秘が人目にさらされているのは困るので、早急に囲うべきだという内容の記事があるから、古くからこの岩が元も重要な信仰対象であったと見てよかろう。

(注釈)；御深秘は、重要な信仰対象であるため披見が許されないので、その実態を知ることは出来ないが、江戸時代の修理に関する材料の記録『覚諄別當日記』を見ると、自然石をわら^{むしろ}蕨で覆い祀っているらしい。・・・

出羽三山神社発行の「出羽三山史」には、御深秘は古例にしたがい17年ごとに造営更新を行うとある。昭和以降は昭和11(1936)、昭和28(1953)に行われたとある。その後の経過について、前頁同学芸員に尋ねたところ、近年では平成19(2007)に行ったようだが、17年が確実に守られているのか？ その前後は？ と少し曖昧であった。

3. その他

出雲大社などのものも報告されている。

柱がなぜ御深秘なのか。それは、イザナキ神とイザナミ神の男女二神が我が国の草創期国生みにおいて天下った時に、^{あめのみはしら}『天之御柱』を立てて行った「みと - の - まぐわい」に始まるからである。

それらについては様々な学者が研究書を世に出している。

伊勢神宮とくれば、外国人で日本文化の素晴らしさを伝えた例として、ドイツの建築家ブルーノ・タウトがいた。彼は日本建築の最高峰として伊勢神宮を挙げ、「世界建築の聖祠」と讃えている。

(end)